

「第17回東京商店街グランプリ」を受賞
5つの商店街が「十条まるっとバル」を合同開催



十条銀座商店街振興組合（北区）

（十条まるっとバル実行委員会）

活用した事業

- ・商店街パワーアップ作戦
- ・商店街リーダー実践力向上塾

コロナ禍で集客数が減り 街バル開催で賑わいを取り戻したい

十条銀座商店街振興組合は、東京都北区の南側エリアに位置し、商店街加盟店177店舗（2022年12月末時点）を誇る同区最大規模の商店街だ。

商店街パワーアップ作戦（以下「パワーアップ作戦」）に申込みをしたのは、2021年5月。商店街を盛り上げたいとの想いで企画した「十条まるっとバル」の開催に向け、外部専門家による支援が必要だと考えたと語るのは十条銀座商店街振興組合の常務理事で事業部長を務める小松克弥さん。

「以前より、JR十条駅周辺の5商店街（十条銀座商店街振興組合、十条中央商店街振興組合、十条仲通り商店会、十条富士見銀座商店街振興組合、いちょう通り十条駅西口商店会）による街バルの開催を検討していました。イベントの成功に向けては専門家との連携が必要だと考え、すぐに申込みを決めました」

専門家との連携で街バルを開催 幅広い層の集客に成功

支援を依頼したのは、全国各地で街づくりや街バル支援の実績のある専門家だった。「アドバイスいただいて特に印象的だったのが、街バルの運営方法に正解はなく、その地域の事情によって特色を出していけば良いという言葉でした」

「十条まるっとバル」では、飲食に限らずテイクアウトやマッサージ店の体験もバルメニューにし、物販、サービス業など多くの店舗が参加できるように工夫したのがポイントである。

「コロナの影響で延期などもありましたが、2022年5月に初開催となりました。専門家の支援のもとに多様な形態の店舗と取り組むことで、幅広い層の集客に成功しました」と声を弾ませる。

パワーアップ作戦で得た成功体験を活かし、 人と人・街が繋がるイベントを継続開催

JR十条駅西口の再開発が進み、都市計画道路の用地買収や店舗数の減少などで、地域の分断そし



写真左から石井博さん、小松克弥さん、齋藤雄介さん

て商店街としての一体性が失われることが危惧されるなか、5商店街のリーダーたちの熱意が通じ、JR十条駅の後援をいただけることになった。

「十条という街が大きな転換期を迎え、5商店街が一致団結する必要があると思いました。今回の街バルを通じて、あらためて人と人、人と街がつながることができた気がします」

「十条まるっとバル実行委員会」の取組は、地域の結束力を高め、地域課題を解決しようとした点などが高く評価され、「第17回東京商店街グランプリ」のグランプリを受賞した。小松さんは「パワーアップ作戦で得た貴重な成功体験を活かして、今後も継続的にイベントを実施したい」と熱く語る。



07

十条銀座商店街振興組合

（十条まるっとバル実行委員会）

北区十条仲原1-4-8 TEL.03-3907-2905

<https://jujo-ginza.com/>

